

# 養成所ニュース

平成14年度 第1号 No.9

発行  
財団法人 日本知的障害福祉協会  
社会福祉士養成所  
〒106-0003 東京都港区西新橋2-16-1  
全国たばこセンタービル7階  
TEL:03-3438-0984

## 第14期生364名が受講スタート!

### 「第14期・新受講生を迎えて」



財団法人 日本知的障害者福祉協会  
社会福祉士養成所

所長 雄谷 助成

新受講生の皆さん。多数の応募の中、合格おめでとうございます。この心躍りつつも決意を新たにされている時にあたり、はなむけにかえて一つ提言を行いたいと思います。

今回受講される364名の方は、皆さんそれぞれに多くの事を抱え、その合間を縫っての受講となると思います。そこには大変なエネルギーが必要でしょう。その努力に頭をさげつつも今私は一層の努力をお願いしたいと思います。受講にかける情熱と同等、それ以上の情熱をもって、今年の行政・各地域資源の動きを見つめていただきたいと思います。

次年度よりいよいよ支援費制度がスタートします。この大変革を目前に控えながら、未だその実態は霞がかかったように不鮮明です。8月以降にこの落差を埋めるべく怒濤のように事態は進んでゆくでしょう。この過程をしっかりと個々の目に焼き付けてほしい。皆さんが社会福祉士資格を取得する目的が、改革のための改革を進めるためではなく、社会福祉法にのっとり、個々の利用者の生活をより豊かなものにするにあるならば、平成14年を見つめることは何よりの講義となることでしょう。健闘を期待します。

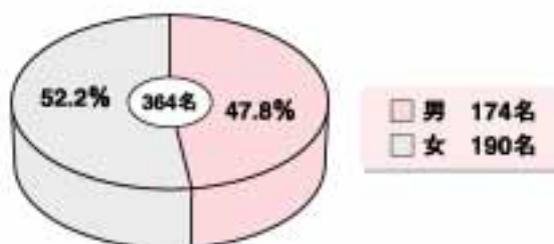
### ■第14期生の概要(4月1日現在)

第14期社会福祉士養成所の受講生は、364名となりました。  
概要については下記の通りです。

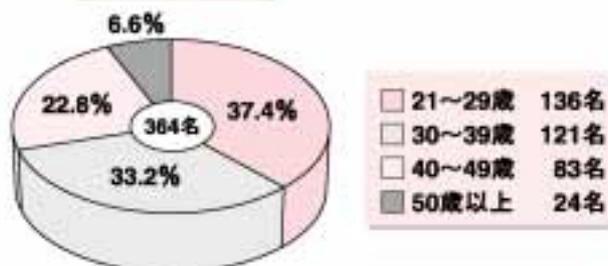
### ●応募状況(過去3年間)

年度(期生)	応募者数	入学者数
平成12年度(12期生)	1,580名	321名
平成13年度(13期生)	837名	288名
平成14年度(14期生)	647名	364名

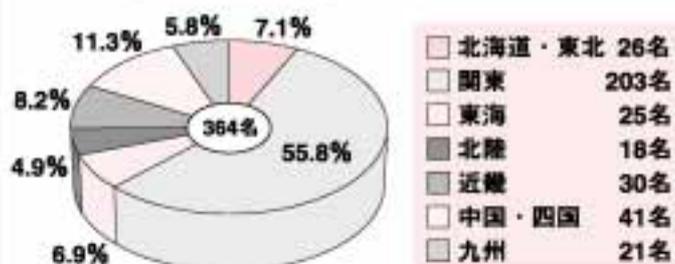
#### 受講生男女比



#### 年齢別分布



#### 地区別分布



#### 勤務先種別



# 国家試験合格者の声

## 第2しょうせいえん 岡本 英樹

後期のスターリングが終了するまでは、レポートに追われて、試験に対する勉強はほとんどやっていませんでした。しかし、スターリングで知り合った皆さんの使い込まれたテキストと自分の真新しいテキストを見比べて危機感を持ち、9月より本格的に勉強を開始しました。

これまで勉強らしいことを何一つしたことがなく、何からやればいいのか悩みましたが、まず、テキストをノートにまとめていく事から始めました。最初は時間ばかり費やしてなかなか進みませんでしたが、慣れてくるとペースも上がり、机に向かう時間も長くなりました。それでも一人一冊集中力に欠ける小学生、日からの刺激に加え、耳からの学習も行う事にしました。ワークブックや過去問題、時事ネタなどあらゆるものを全てMDに録音(自分の声だけだと聞いていて気持ち悪くなるので小さめにBGMも入れた)し、それ聞きながら、テキスト等を読むことを繰り返しました。順番を入れ替えて再生できるので、より内容が頭に入ったように思います。また、どうしても運動が不足がちになるので、テキスト聞きながら散歩などをして気分転換をはかりました。(夜の散歩が効果的)

職場の人達や家族の励ましや協力のおかげであるのはもちろんのこと、好きなことはやめず、分刻みの予定を組み、両立しました。また、社会福祉士の懇話会などに参加させてもらい、そこでアドバイスを受けることも自分にプレッシャーをかけたことも合格につながったと思います。(職場の同僚が一年後に同通信課程を始めたことも大きい)

反省点はワークブックにとらわれ過ぎず、福祉新聞などにももっとよく目を通しておくべきだったということです。

より広い知識が求められる中、仕事をしながらの勉強は大変でしょうが、少しずつでも毎日続けて頑張ってください。皆様のご健闘を心よりお祈りしています。

## 専門学校ジャパンビジネススクール 太田 朗夫

私は平成11年に養成所(10期)を修了した者です。在所中は関係諸先生方には、大変お世話になり誠に有り難うございました。軽い気持ちで入所したものの、若い方達との競争は、正直言って口では軽くあしらっていたものの、現実にはそんなに楽なものではありませんでした。諸先生方の注意を忘れずに心に響いながらも、十分には実行していたとは言えなかったと思います。

2回の失敗を高齢の域に達して初めて味わいました。今までにあまり失敗のなかった自分にとって、これ程の屈辱はありませんでした。

60歳を過ぎ、高齢者の仲間入りをしての受験は、家族からは老いの穢れ我慢とか言われながらの挑戦でした。今回運良く合格できましたことは、関係の皆様はじめ家族の励みながらの応援の賜と思っております。今になって者みますと、高齢の域にある者には、あの試験形態は開発能力を試すものであり、ほぼ瞬間的に判断し解答しなければならぬことは大変なことなのです。試験終了後読み返してみると8割近くは正答できるのに、残念でなりません。高齢者に、少しは時間の配達は是非望みたいものです。老いの愚痴を申し上げましたが、今回の受験では次のことに特に留意しました。試験の流れ(傾向)をよく掴むこと、時間配分を市販の模試や自分で編成した模試で何回も体験し感覚を掴む、引っかかり問題にはまらないこと(大分少なくなったようです)、長文では、鉛筆で重要箇所をマークしながら見直すとき分かりやすくすること、などです。60代の方達は、恐らく1~2週で苦杯をなめられた方が多いのではないかと推察します。私は何時も目標を100%正解におき、度々我慢ではありませんが、マダマダ若い者には負けたいぞという気構えを持ち続けることが、最も大切ではないかと思っております。これから受験を目指す高齢の方、体調をうまくコントロールしながら(風邪は大敵)合格を目指して欲しいと思います。ご健闘を心からお祈り申し上げます。

## 久谷育成園 渡部 美満子

しました。

11月の模擬試験の時点で、まだ、13教科まで勉強が追いついておらず、自分にプレッシャーをかける姿に受けました。やはり、60点台で非常に焦りましたが、勉強の進み具合が再確認でき良かったと思います。

最後の約1ヶ月半は、1教科ずつ短期間で集中的に勉強し、仕上げていきました。

12月の忘年会シーズンでも、会に参加しても必ず少しでも机に向かう習慣をつけました。体調にも気を配り風邪をひかないように心掛けた。睡眠がおそったり、持って帰った仕事等で、なかなか計画通りに進みませんでしたが、休日に集中的に取り戻すようにしました。周りの仲間とお互いに刺激し合いながら頑張りました。

最後になりましたが、毎日の少しずつの積み重ねが大切だと思います。皆さんのご健闘と合格をお祈り申し上げます。そして、養成所の先生方、どうも有り難うございました。

通信教育を始めた当初は、試験勉強は早々に1年前から始めようと思然と考えていたが、実際に始めたのは、7月頃でした。約半年前という事で、1ヶ月2教科という大きな目標を立て、半月間は1教科を徹底的に集中して勉強しました。もう少し早く始めていれば、少しは余裕があり、良かったと振り返って思いました。

まず、過去問題集を9~13回まで解き、教科書へ試験に出た所を線引きしました。解説を読み、教科書を探して、という作業は時間をとられましたが、知らない間に大事な部分に線が引かれ、過去問題の傾向が浮き上がってきました。問題集には、正誤の○×を記入しておきました。次に教科書を最初から読み直しました。重要事項を抜き出し、ノートを作ろうと思いましたが、時間不足だったので、「必携」を自分のノートがわりにし、線を引く、重要事項を記入し、自分専用の「必携」を作りました。外出する際には、必ず「必携」を持ち歩き、少しの時間でもあると見るようにしました。そして、過去問題や模擬試験に戻り、×が○になるように繰り返

## 「第14回国家試験結果をもとに」

平成13年度から社会福祉士養成の新カリキュラムが導入され、今回はその新カリキュラムに対応した問題が出題されているかどうか気になるころでした(第13回試験では出題が見送られていた)が、結果的には部分的に反映されており、特に事例問題の傾向がはっきりと変わりました。問題文と解答選択肢の文章量が圧縮されたことや問題文を読まずに選択肢だけで解けてしまうような問題は今回から無くなりました。つまり、読解力から理解力や問う問題へ移行していると言えます。また、事例問題の増加や社会福祉士の現場業務との関連をもたせた設問が見られました。これは社会福祉士としての質を問われる時代に入し、机上の理論よりも実践的な力量を計る内容に変わってきていると言えます。

合格者(8,343名)の内訳は、福祉系大学卒業者が62.7%、本養成所の属する一般養成施設は36.6%となります。しかし、合格率で見ると前者が約30%であるのに対し、後者は約50%となります。これは、一般養成施設の修了者は確固たる目的意識をもって受験する人が多いことに対して、福祉系大学等は記念受験というムードがあるようです。

合格ラインは例年通り正解率60%(推計)でした。最近の傾向として、合格者と不合格者との点数に大きな格差が出ています。(アンケートより)

今後はよりジェネリックな資格として、出題基準や合格基準の公表などが論じられていますので、第15回試験は「今後のスタンダード」をめぐって大きく変化することが予想されます。

## 第14回国家試験に関するアンケートについて

科目別難易度



平成13年9月に修了した第12期生303名を調査対象とし、119名(①受験をした109名、②申込をしたが当日受験をしなかった7名、③申込をしなかった3名)からの回答が得られた。

左図は受験者の科目別難易度を示したグラフである。前回(回答数168名)と比較すると社会福祉原論・障害者福祉論・児童福祉論に大きな変化が見られる。

# 「はじめまして・・・」

財団法人 日本知的障害者福祉協会  
社会福祉士養成所

専任教員 五島 秀一



皆さんはじめまして、専任教員の五島でございます。平成14年4月1日付にて着任いたしました。この度縁あって歴史ある日本知的障害者福祉協会社会福祉士養成所の一員として皆さんと共に学ぶ機会を得たことは、この上ない光栄であり、身の引き締まる思いで一歩です。私事でございますが、前任者同様ご指導ご鞭撻のほど、紙面をお借りして、宜しくお願ひ申し上げます。

さて、去る平成14年3月28日、第14期の国家試験の合格発表があり、本養成所からも229名という多数の合格者が出ました(別掲の集計表参照)。まずは明れて国家資格保持者となられた方々に対し、満腔の敬意を表すると共に、真心より喜びを申し上げます。

福祉系大学、一般養成所等、数ある社会福祉士養成関係機関の中でも、本養成所の合格者数は10割に入る高水準を維持しています。優秀な教師陣や老舗としてのシステム等、その理由や原因は色々有るのですが、最大の理由は本養成所に学ぶ学生諸氏の志の高さだと思います。

この志の高さは何から来るのか。その答を求めて14期生の入学選考のための小論文を読ませて頂きました。その中で非常に特徴的で気になる表現が多数の方々に共通して見受けられました。それは、施設職員として、これでよいのか、何故変われないのだから等、現場職員としての課題意識に溢れ、なんとか現状を打破したい、古い体質のままでは選ばれる福祉の時代を生きていけない、といった危機感に溢れる内容でした。時代の変化への対応の問題というのは福祉に限ったことではありません。企業も、政治もまたしかりです。しかしながら、福祉基礎構造改革が叫ばれ、社会福祉法の理念の下、急速に、しかもある意味従来のベクトルとは対局に向かって変化しようとする福祉は、その担い手である多くの施設現場に、戸惑いや混乱を招いている感じがあります。

そうした施設現場の中で、自らの業務内容や現実の処遇問題を整理整頓するために社会福祉士資格が欲しいという、強くて、避けられない要請によって応募される方々がほとんどと言っても過言ではないでしょう。その強い問題意識に支えられた高い志によって、全国平均30%にも満たない低い合格率の中で、56.7% (現役合格率44%) という高い水準を維持していられるのだと思う訳です。

本養成所としてはどんな設備にせよ沢山の応募を頂くことは嬉しいことです。是非とも多くの方々に本養成所で勉強を通じて夫々のあるべき姿を発見して頂いて、それを各施設現場に持ち帰って頂き、そのことによって各施設が夫々地域の中で、時代の先頭を歩んで頂きたいと心から願って止みません。

本年度入学された14期生の学生の皆さんは、これから1年6ヶ月という期間に沢山のプロセスをこなさなければなりません。毎月のレポート提出、スクーリングの参加、実習等の直接的な学習はさる事ながら、通信教育ならではの放送等の段取りやスクーリング参加の為に交通手段や宿泊の確保等、付随する事務的な事柄も結構煩わしいものです。さらに、ほとんどの方が福祉関係領域での仕事に従事しながら、身体的にも精神的にもギリギリのところでの学習を継続しなければなりません。是非とも初心を忘れることなく、高い志を維持して頂いて、無事に養成所を卒業して頂きたいと思っております。しかし、ここで改めて喚起しておきたいのは、最終目標はあくまで養成所の卒業ではなく社会福祉士国家試験に合格すること。そして時代の求める福祉専門家として、実践の中でその資格を存分に活用するんだという強い決意を持っていただくという事です。

福祉は確実に変化しています。社会福祉士資格があっても職場の中での特遇も変わらないし、勉強だけ出来れば良いという気持ちの方もいらっしゃると思いますが、そうではありません。

社会福祉法の求める利用者本位の福祉というものは、ある意味理想かもしれませんが、その理想を一步でも近づき、理想を現実のものとするために、社会福祉士は利用者の福祉向上、権利擁護の最後の壁にならないといけないという社会的責任があるのです。福祉人として、そうした社会の要請に応えることが出来ることの幸せを共に味わうために、全員卒業、全員合格を目指して頑張りましょう。

具体的な勉強方法としては、①教科書の精読と理解、②過去問題のチェック、③制度・施設への精通等が考えられます。

①については、通信教育の要でもある毎月のレポート提出に合わせて実践していく事になりますが、仕掛けて出題関連の部分のみ丸写しの様なパターンが多いようです。しっかりと精読し、内容を理解した上でレポートするように心がけてください。

②は最近の傾向として、過去問が参考にならないという声があります。これは、国家試験のレベルが変わっているのではなく、基礎構造改革の流れの中で、多様な見識がより求められるようになってきている証です。国家試験に関するワークブックが沢山出版されていますから、教科書や本養成所の準備する練習問題にとどまらず、幅広く学習しましょう。

③は激しく変化している制度施設への対応の遅れが目立ちます。厚生労働省が発行する「厚生労働白書」や内閣府の「障害者白書」等行政機関直轄の参考文献や「社会福祉六法」等の法律集も必ず最新のものに目を通すことをお勧めします。それでは、1年6ヶ月という学習期間の後に、今とは違うご自分に会うことを楽しみにされて、確実に継続性のある学習に進まれることを期待しています。

## ちょっと一息



### 横浜名所案内 ~横浜中華街~

当養成所が後期スクーリングを横浜の地で行うようになって、はや4年が経ちました。毎年訪れる度に新しい発見に出会います。さて、ちょっと一息。そんな横浜の名所(今回は言わずと知れた)横浜中華街をご案内します。

日本には有名な中華街が神戸、長崎とありますが、ここ横浜中華街は外国人居留地が発展した街で、安政4年にペリー提督が浦賀に来訪したときに、徳川幕府が横浜を貿易港として定めたのが始まりとされています。関東大震災後に長さ150mほどの造りの両側に店が作られ、この大通りを中華街と呼ぶようになりました。戦後いち早く復興に立ち上がり街づくりに専念し、現在の街として築えています。広さは約500m四方で、500もの店舗(うち200近くが中国料理店)が軒を並べています。一角には日本で最初の関帝廟(三国志で有名な関羽が祀られている)があり、中国の伝統工芸をこらした建物の豪華絢爛さは異彩を放っています。また、ライトアップされた夜の景観は荘厳な雰囲気があります。

さあ、気分転換に少し足をのびして横浜中華街まで散歩してみたいはいかがでしょうか。

## 第13期生後期スクーリングのお知らせ

会場 パシフィコ横浜  
日程 平成14年8月12日(月)~18日(日)

月日	時間	科目	講師(所属)
8/12 (月)	9:25~9:30	開講式	
	9:30~12:30	介護概論	守佐美千恵子(昭和大学)
	13:15~16:15	公的扶助論	新保美香(明治学院大学)
	16:25~17:25	介護概論・公的扶助論 試験	
8/13 (火)	9:30~12:30	社会福祉援助技術論①	春見静子(上智大学)
	13:15~16:15	社会福祉援助技術論① 試験	
8/14 (水)	9:30~16:00	社会福祉援助技術演習	演習教員
	17:00~19:00	交流会予定(申込者)	
8/15 (木)	9:30~16:00	社会福祉援助技術演習	演習教員
8/16 (金)	9:30~12:30	社会福祉援助技術論②	松本栄二(文京女子大学)
	13:15~16:15	社会福祉援助技術論② 試験	
	16:25~16:55	社会福祉援助技術論② 試験	
8/17 (土)	9:30~12:30	老人福祉論	新名正孝(法政大学)
	13:15~16:15	老人福祉論 試験	
	16:25~16:55	老人福祉論 試験	
8/18 (日)	9:30~12:30	地域福祉論	野口定久(日本福祉大学)
	12:40~12:45	開講式	
	12:45~13:15	地域福祉論 試験	
	14:00~16:00	模擬試験予定(任意参加)	
	13:45~16:15	社会福祉現場実習事後指導(実習対象者)	

**第14期生  
前期スクーリング日程**

会場:千代田区「砂防会館」

期間:平成14年9月14日~16日、  
平成14年11月1日~4日

**きぼーと**

印刷部発行 課外のご案内

- 毎月15日発行 85頁 76ページ
- 1部580円(税込・送料共)
- 年間購読料6,300円(税込・送料共)
- 当協会加入施設職員の方は 円で年間購読できます。(1部470円)

お申し込みは  
当協会「きぼーと」係まで

お問い合わせ先  
**(財)日本知的障害者福祉協会 社会福祉士養成所**  
〒105-0003 港区西新橋2-16-1 全国たばこセンタービル7階  
**Tel: 03-3438-0984 (養成所直通)**  
ホームページアドレス <http://www.aigo.or.jp/>

※養成所に対するご要望・ご意見等ございましたら、ご連絡ください。